



耕耘作業・育苗管理

(田植後の生育を決める重要な管理です！)



1. 耕耘(整地)作業 ~栽培管理のしやすい圃場づくり~

~ポイント

1) 耕耘の注意点 ※圃場が乾いた日を逃さず作業しましょう！

- (1) 適正な作土深を確保するため、耕す深さは15cmを目安とする。
- (2) PTOは1~2速で、ロータリーを緩やかに回転させ土塊を大きくする。
- (3) 圃場のすみを耕耘するときは、作土が一か所に偏らないよう注意する。
- (4) 前年産の収穫時に生じたコンバインによる「わだち」は丁寧にならし、田面に凹凸を作らないようにする。

*田面が盛り上がった所は除草剤が上手く効かず、雑草が残りやすくなります。
耕耘作業時に田面を平らにし、田植後の除草効果を高めましょう。

2) 排水作業※水の溜まりやすい圃場限定

畦畔沿いに溝を掘る等により、圃場を乾燥させ耕耘しやすい状態にしましょう。

2. 育苗期間中の管理 ~田植後の生育はこの期間で決まります!~

~ポイント

1) 温度管理 ※適温を保ち、ムレ苗・徒長苗を防止しましょう！

苗の生育に応じた適温

- (1) 出芽期 (幼芽長=出芽後の苗長が0.5~1cmの頃)

30~32℃に保つ。

- (2) 緑化期 (苗長が3~4cmの頃)

22~25℃に保つ。
*夜温が10℃以下となる場合は保温しましょう！

- (3) 硬化期 (苗が緑色となった頃)

基本的に屋外で、図1の状態まで育てる。
*気温が12℃以下となる場合は保温しましょう！

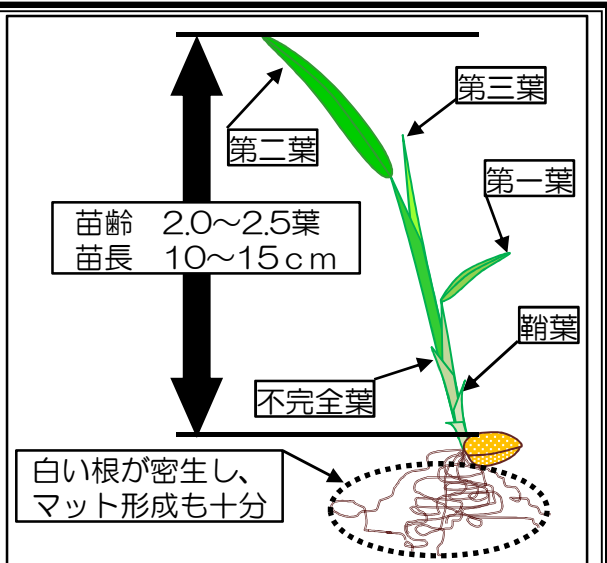


図1 適切に育成された苗

2) 水管理 ※「回数少なく、たっぷり灌水」が基本！

- (1) 灌水は午前10時頃、午後2時頃の2回が基本 (図2参考)
*平坦地では、晴天の日にはもう1回増やす必要が生ずる場合があります。

- (2) 夕方の灌水は、水分過剰となりやすいので避ける。

・温度と水に注意し、勢いのある丈夫な苗を作りましょう！

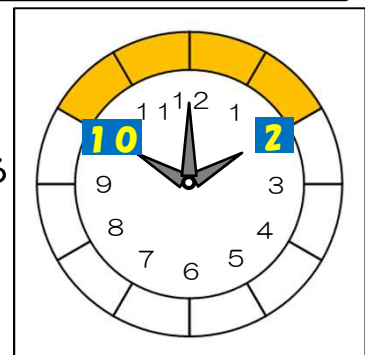


図2 灌水の時間帯